

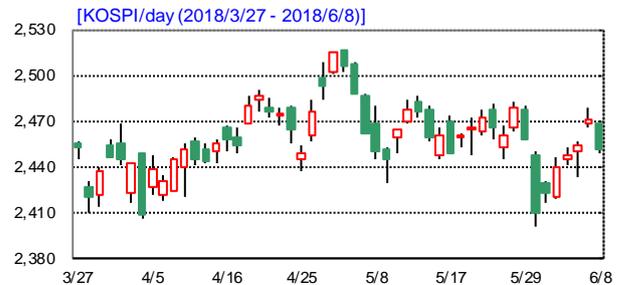


【韓国】 総合指数は週間で0.5%高と反発、今週は重要イベントに注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%高と反発した。6日が祝日のため休場で4日間の取引だった。週初の4日は前週末の欧米株式市場の上昇を受けて投資家心理が強気に傾き、3営業日続伸で始まった。その後も、米朝首脳会談が実現の運びとなり、朝鮮半島の地政学リスクが和らぐ中、堅調な米国株の流れも加わり良好な地合いが続いた。指数は7日まで5連騰。ただ、急ピッチで上昇した反動で、8日は目先の利益を確保する売りが優勢となり、6営業日ぶりに反落した。週末にG7主要国首脳会議、週明けに米朝首脳会談、米FOMCなど重要イベントを控えた様子見気分も重しになった。今週は米朝首脳会談の成り行き次第で相場ボラティリティが高まる可能性がある。米利上げ回数の引き上げが焦点になるFOMCの動向にも注目。

▼指数チャート

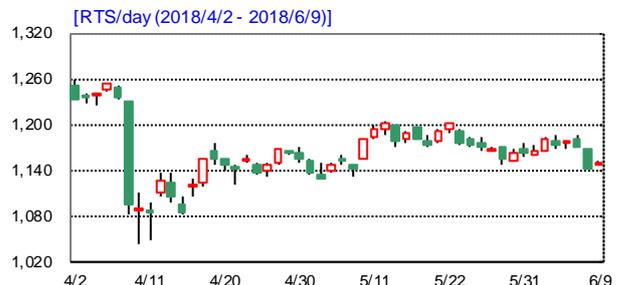


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.3%安と4週続落、今週も原油・ルーブルが焦点に

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は1.3%安と4週続落。原油安や通貨のルーブル安が引き続き重しとなった。週明け4日は前週末比1.3%高と前週から4営業日続伸となったが、ブレント原油先物が5月8日以来となる74ドル割れまで下落したことで、資源・エネルギー株の比率が高いRTS指数は押し戻された。ロシア財務相が外貨購入を増やすと発言し、ルーブルが下落したことも嫌気された。8日は食品小売りのマグニトやエネルギーのスルグトネフテガス、金融のVTB銀行、ズベルバンクなどが大きく売られ、指数は2.4%安と急落した。翌週の11日（バンク・ホリデー月）、12日（ロシアの日）が休場となるため振り替えて取引された9日は0.6%高と反発して終了した。今週は引き続き原油相場やルーブルの動向をにらんだ展開か。

▼指数チャート

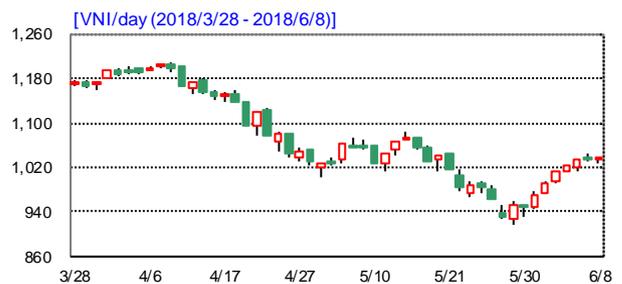


【ベトナム】 VN 指数は週間で4.6%高と大幅続伸、今週は利益確定売りに要注意

先週の動き／今週の展望

VN 指数は4.6%高と大幅続伸。先々週までの大幅下落の反動で食品、不動産、金融株などに買い戻しが続き、前週5月31日から7営業日続伸した。南欧の政治リスクが後退し、金融市場全般でリスク選好が強まる中、ホーチミン市場も買い優勢でスタート。週明け4日は空運や金融株が買われ、指数は2.1%高と大幅続伸。6日は利益確定売りの勢いが強まり、序盤に前日比1%安まで下落したが、金融株や不動産株が買われ1.1%高と切り返して終了するなど反発力の強さを感じさせた。個別ではハノイ～関西空港線の就航予定を好感したベトジェットが週間で12.4%高となったほか、乳業のビナミルク、金融のベトナム外資銀行、不動産のビンググループなど4-6%高となった。今週は大幅続伸後の利益確定売りにも注意が必要か。

▼指数チャート

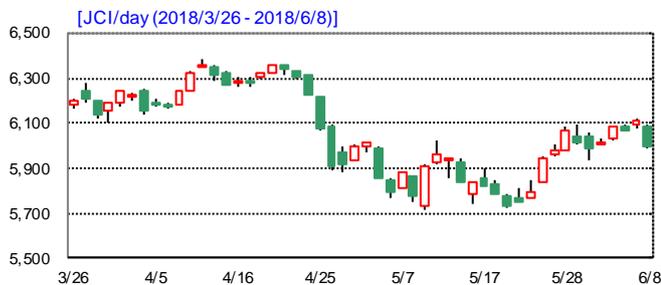


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%高、今週は断食明け大祭で 1 週間を通じて休場

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%高と 3 週続伸。週初から堅調に推移したが、週末の下落が上昇幅を縮めた。連休明けの 4 日は、5 月の CPI 上昇率が前年同月比 3.2%と市場予想を大幅に下回り、物価上昇圧力が低下したことが好感されて、指数は終値で 3 営業日ぶりに反発。5 日は前日の NY ダウが上昇した流れを引き継ぎ、前日比 1.2%高と続伸した。その後は 6 日に反落したものの、7 日に買い戻されて約 6 週間ぶりの高値を更新したが、8 日は G7 サミットの開幕を目前に控えた様子見で幅広い銘柄が売られ、1.9%安と反落して引けた。今週は断食明け大祭のため 1 週間を通じて休場。取引再開は 20 日となる。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.3%高、今週は 12 日にセントーサ島で米朝首脳会談開催

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.3%高と 4 週ぶりに反発。週末の下落を除き、おおむね堅調な値動きだった。週初の 4 日は、前週末の NY ダウが 5 月の雇用統計の内容を受けて大幅上昇した効果で、前営業日比 1.2%高と反発。5 日は前日の取引終了後に発表された 5 月の製造業 PMI が 52.7 と市場予想から下振れたが影響は軽微で続伸した。その後、6 日は反動で売られたものの 7 日には反発。ただ、8 日は金融株が下落し、指数は終値で前日比 1.1%安と反落した。今週は 12 日に 4 月の小売売上が発表されるほか、米朝首脳会談がセントーサ島で行われる予定。15 日はハリラヤプアサ（断食明け祭）のため休場。

▼指数チャート

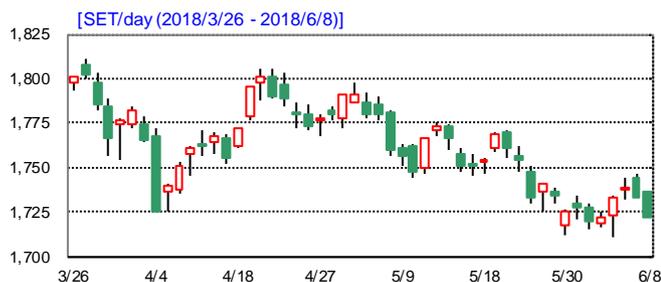


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.1%高、原油先物価格の上昇を好感

SET 指数は週間で 0.1%高と小幅ながら 5 週ぶりに反発。週半ばまではじりじりと上値を広げたものの、後半は軟調だった。週初の 4 日は、前週末に発表された 5 月の米雇用統計で、失業率が 18 年ぶりの低水準だったことが好感されて反発。6 日はベネズエラが不可抗力条項を発動し、原油輸出を部分的に停止する可能性が報じられたことによる原油価格の上昇を受けて 3 日続伸した。ただ、その後は買い材料に乏しく、8 日は 12-13 日に開催される米 FOMC での利上げがほぼ確実となっていることで売られ、続落して取引を終えた。今週も国内の重要イベントが少なく、外部要因が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート

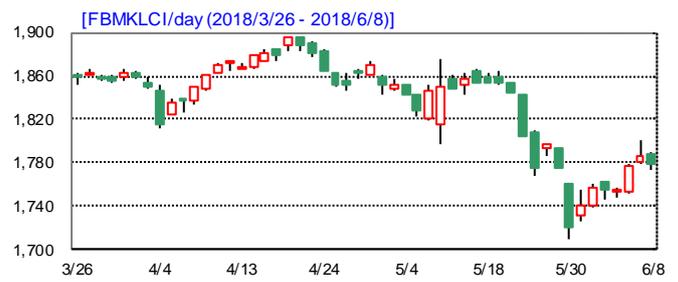


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%高、エネルギー株が指数上昇をけん引

クアラルンプール総合指数は週間で 1.2%高と 3 週ぶりに反発。週半ばからの上昇が指数を支えた。前半は前週末からほぼ横ばいで推移。5 日は 4 月の輸出額が前年同月比 14.0%増と市場予想から大幅に上振れしたものの買い材料にならなかった。一方、6 日は原油価格の上昇を受けてエネルギー株が買われ、指数は終値ベースで前日比 1.3%高と反発。7 日は前日の NY ダウが約 3 カ月ぶりの高値を更新した流れを引き継ぎ、金融株が買われた。ただ、8 日は利益確定売りで 3 日ぶりに反落して取引を終えた。今週は 11 日発表の 4 月の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。15 日はハリラヤプアサのため休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。